

## 日本語教員養成課程の目的・目標の整理（たたき台）

各日本語教員養成課程において、どのような人材育成を行おうとしているのか、カリキュラム・シラバスの基となっている「目的・目標」「養成する人材等」等を基に整理した。収集した資料に記載が見当たらない場合は、当該機関の web サイトを参考にした。

## （1）大学等

- ・ 調査対象機関において、どのようなことに重点を置いて人材養成を行っているかがえるキーワードをカリキュラム等から抽出したところ、抽出できたのは、①「理論と実践，知識と技術，知識とスキル等」，②「言語・文化への理解等」，③「実践力，実践的な能力等」，④「高い専門性，専門知識，高度職業人等」，⑤「コミュニケーション能力等」，⑥「幅広い知識と教養，国際感覚等」である。
- ・ 各養成機関においては，①～⑥のキーワード一つのみが挙げられている場合もあれば，複数のキーワードが挙げられている場合もある。これ以外のキーワードとしては，「国際理解・国際交流」や「基礎的知識等」もあり，それぞれ独自の教員養成の目的を打ち出していると言えるのではないか。
- ・ その一方で，いずれのキーワードも含まない場合や，目的や養成の方針が明確に示されていない場合も，わずかながらあった。（31課程中3課程で記載なし。）

## （2）日振協

- ・ 今回の調査の範囲から抽出できたキーワードは，①「理論と実践，知識と技術等，知識とスキル等」，④「高い専門性，専門知識，高度職業人等」，⑥「幅広い知識と教養，国際感覚等」である。
- ・ ただし，目的や人材養成の方針が明確に示されていない場合の方が多かった。（17課程中11課程で記載なし。）

## （3）地域

- ・ 調査対象機関において，どのようなことに重点を置いて人材養成を行っているかがえるキーワードをカリキュラム等から抽出したところ，キーワードは，①～⑥のいずれにも含まれない⑦「その他」が多く見られた。具体的には，「学習支援，日本語支援，日本語学習支援等」や「日本語指導，教え方等」，「外国人との交流」等が挙げられた。
- ・ 「支援」「指導」「交流」は，明確に定義づけられているわけではないが，養成課程の後の活動には異なる三つの基本的なスタンスがあることを示しており，このことは，地域の状況や課題によって求められる人材に幅があることを表していると考えられる。

- ・ このほか、日本語非母語話者を対象とした養成課程において、「日本語の運用能力」、「日本語の分析力」、「日本事情の知識」等も見られた。
- ・ 一方で、目的や養成の方針に該当する記述が明記されていない場合も、今回調査した範囲の1／3あった。（21講座中7講座で記載なし。）